

障がいがつなぐ
やさしい地域の輪じゅうにんという
NPO 法人 十人十色

寺岡 里紗 さん 岸本 美鈴 さん 森井 麻貴 さん
Risa Teraoka Misuzu Kishimoto Maki Morii



11月末の「とりアート(鳥取県総合芸術文化祭)」への出演をめざし、ユニークな編成で貝がら節を練習中

寄宿塾から自律支援へ

用瀬町安蔵の、国道53号を少し山側に入ったところに、緑に囲まれたこぎれいな木造の建物がいくつかあります。NPO 法人十人十色の活動の本拠地です。理事長の岸本美鈴さんにお話を伺いました。

岸本さんは、このNPOに携わるまで、鳥取駅の近くで学習塾を30年間経営していました。ユニークなのは普通の学習塾と同時に、虐待や育児放棄を受けていた県外の子どもたちを引き取り、「寄宿塾」という形で一緒に暮らしながら、

勉強を教えていたことです。

そのうちに、障がいを持つ子どもたちも多くなってきました。行政の福祉担当者が塾を見て、福祉の事業として取り組めば補助が出るとアドバイスをもらえました。さっそく岸本さんは仲間を集めて学習会を開き、どんなことをすべきか話し合いました。平成16年3月のことでした。

その結果、目標をいくつか設定しました。NPOの設立、自律支援ホームの運営、社会で働きづらい人たちの働く場づくり、5年後には社会福祉法人化、イベントや祭りを行

うこと。

目標が決まると行動は速く、学習塾をたたみ、さっそく同じ月に、用瀬の岸本さんの生家の敷地の中で、引きこもりの子、虐待を受けた子たちのための自律支援ホームを設立しました。

助け合いが自分を助け

平成17年8月にはNPO 法人十人十色を立ち上げます。

「この名前は、最初の学習会のときに決めました。みんな違ってみんないい、という思いです。障がいのある人、高齢の人、いろいろな人を受け入れ

られる場を作りたいと思ったんです」と岸本さんは命名の経緯を話します。

同じ年の10月には障がい者のための小規模作業所、そして、今年の6月には高齢者のための小規模多機能のサービスを開始。食事の提供のための食堂「という亭」は、利用者だけでなく、一般のお客さんもお茶を飲んだり食事(予約制)をしたりできます。

当初の目標どおり、引きこもりだった子も、障がい者も高齢者も、楽しく一緒に過ごしています。

そんな生活が、すばらしい

日露戦争と人々の生活



たなかたつのすけ
田中達之助作
「郷土の玩具」より(個人蔵)

明治 37 (1904) 年 2 月 10 日、日本とロシアが戦う日露戦争が始まりました。この戦争には、明治 29 (1896) 年 12 月に創設された、鳥取の人々が多く入営する歩兵第四十連隊も参加しました。日露戦争における陸上の三大会戦(遼陽会戦、沙河会戦、奉天会

戦)に参戦しましたが、多くの人々が戦地で亡くなっています。

この戦争では、新聞や雑誌など、マスメディアによって戦地や戦闘の報道が行われました。地元新聞である「鳥取新報」(のちの日本海新聞)の記者も従軍して見聞し、一般民衆はそれらが伝える戦争の状況に一喜一憂しました。旅順陥落の際には、鳥取市内で祝賀提灯行列が行われ、戦後には、棒鼻(今の鳥取駅の西側)から兵営(今の立川町七丁目周辺)までの 20 数力所に凱旋門を設け、凱旋する兵士を歓迎するなど、市内は戦勝祝賀のムードでにぎわったといえます。

子どもたちの間では、乃木希典陸軍大将、東郷平八郎海軍大将などの軍人をモチーフとしたメンコが人気となるなど、玩具(おもちゃ)にも当時の世相を反映したものが増えていきました。鳥取においても、紙軍艦や兵隊人形などの玩具が作られました。

開催中の展覧会では、四十連隊をはじめ、鳥取の人々が日露戦争にどのように関わっていたのかを紹介します。

鳥取市歴史博物館学芸員 横山展宏

鳥取市歴史博物館展覧会

「日清・日露戦争と鳥取～歩兵第四十連隊の創設～」

とき ～12月13日(日)

ところ やまびこ館 1 階 特別展示室

※詳しくは、26 ページをご覧ください。

問い合わせ先

やまびこ館 上町88 (0857) 23-2140



今年始まった小規模多機能のサービスも、すでにたくさんの利用者が

効果を生んでいます。「それぞれ、障がいがあったり、認知症があったりしますが、得意分野もあって、助けることもできるんです。相手の役に立てると、自信につながります。表情も姿勢もどんどん良くなっていくんですよ」と岸本さんは顔をほころばせます。

また、農作業体験、美術制作、音楽演奏など、専門家を講師に招いて、さまざまな体験も行っています。

「知的障がいのある子が、ちぎり絵に関心を持ったので、習わせました。しばらくしたらすばらしいちぎり絵を作るようになったんです。『裸の大將がおるなあ』なんて言われますよ」と岸本さんは誇らしげに話します。

多彩な支援者

今では、20代から70代まで、20人の職員がNPOを運営し、数えきれないボランティアや近所のみなさんが活動を支えてくれます。

職員の中には学習塾の生徒だった人も。

経理や事務を担当する森井麻貴さんは「岸本さんの学習塾は、いろんな人がいて面白かったですね。岸本さんに誘われて最初の学習会に参加し、当時勤めていた仕事を辞めて、この事業に参加しました」と話します。

現場で利用者のみなさんのお世話をする寺岡里紗さんは「大学を卒業して京都で働いていたんですが、ある時岸本さんから『鶏がおるから見に来て』と、連絡があったんです。何のことかよくわからず来てみると、まるで以前の塾のような楽しい活動をしていて、

すぐにここで働こうと思いましたが」とのこと。

地域とともに暮らす

「障がいのある人がこの地域に住むようになって、地域のみなさんが積極的に手伝ってくれるようになりました。ちょっとした心遣いをいつもいただいで、みなさんの愛を感じています」と岸本さん。

地域とともに暮らすNPO法人十人十色は、人と人とのつながりを作るヒントをたくさん与えてくれそうです。

NPO法人十人十色の連絡先
(0858) 87-3770